

カトリック 仙台教区報

1999年 12月15日 No.137

— 発 行 —

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
☎(022)222-7371 FAX(022)222-7378

大聖年と私たち

教区管理者 鷹嘴達衛

いよいよ十二月二十四日に聖ペトロ大聖堂の「聖門」が開かれて大聖年が始まります。

み言葉が人となってこの世界に見える姿で救いの業が始められて二千年目という大きな節目の年を迎えました。この意義ある年を迎えるに当たってこれまでの信仰生活を見直し、神の子として生きる決意を新たにいたしましょう。

一、大聖年の行事

大聖年をふさわしく過ごすために全世界の教会とともに、また仙台教区として、さらには個人として様々な取り組みがあります。

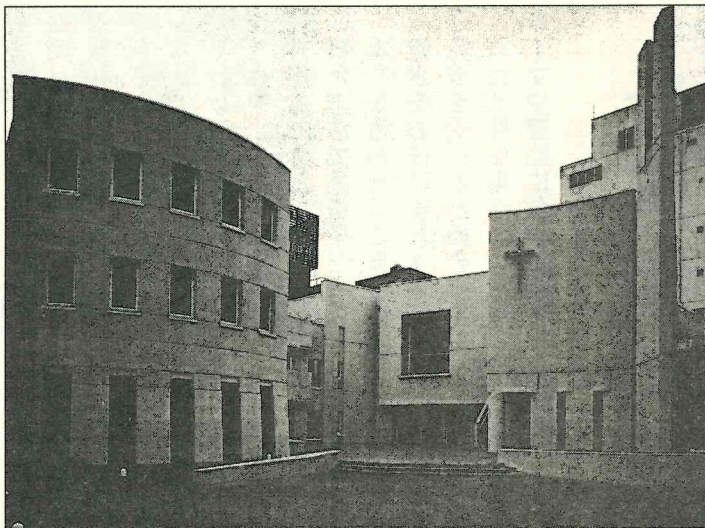
① 聖門を開く

イエスは「私は門である。私を通して入る人は救われる」(ヨハネ10・9)と言われました。この言葉を象徴的に表すものが「聖門」です。これを聖ペトロの後継者である教皇がこの門を開いて聖年の幕

開けを告げます。

② 巡礼する

昔から聖地を巡礼するといふことが行われてきましたが



巡礼は苦行でもありません。それを犠牲としてお捧げした訳であります。そこで大聖年において巡礼が勧められるのです。

③ 罪を告白する

神の子としての新しい出発は、自分の行いを神に召された者としてふさわしく生きて来たかを振り返ることから始まります。私たちは罪を告白することで神様に赦しを乞います。神様は私たちの「打ち砕かれ悔いる心を：悔られません」(詩編51・19)。

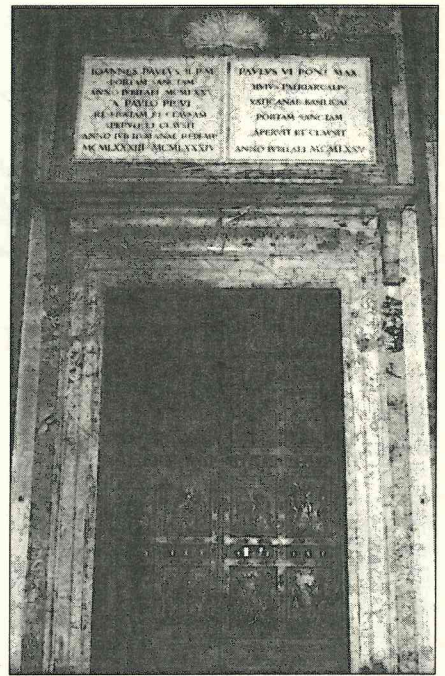
④ 罪の償いをする

今年先進国が発展途上国に対して債務を一部帳消しにしたのは私たちの信仰の具体的な実践でありました。このような寛大な政策がより徹底的に行われるように祈り、協力を続けましょう。このような取り組みが個人的に行われる時、どれほど神様に喜ばれることでしょうか。

(二頁上段へ続く)

生命の泉

いよいよ大聖年が始まる。日本だけではないだろうが世紀末の不安のためか様々なやりきれない事件が多発している。○確かにこのまま世が終わるのであれば、身辺を整理しなければ位のことはすぐに頭に浮かぶ。聖書に世の終わりに「しるし」が伴うとの記事がある。このような終末のしるしより偽予言者を警戒せよとのメッセージの方が傾聴すべきかも知れない。浮き足立ってウロウロすることの方が良くない。み言葉に信頼する以外に取るべき態度はない。「時」は神様のものだ。○今年の暮は特に亡くなった方が多かったような気がする。教会の有力なメンバーが亡くなるのは寂しいが私たちが出来ることといえば「思い悩んだからといって寿命をわずかも延ばすことができようか」とのみ言葉に信頼することだけだ。○もう一つ忘れてならないのは、終わりの時は収穫の時であり、収穫は喜びの時と教えられた通りの信仰に生きて行く一年にしたい。(守)



▲12月24日に開かれるバチカンの聖ペトロ大聖堂の聖門の扉

二、仙台教区としての

取り組み

①巡礼教会の設定

仙台教区では以下のように巡礼免償指定教会を定めましたのでご活用ください。

- 宮城県—元寺小路教会
- 青森県—本町教会
- 岩手県—四ツ家教会
- 福島県—郡山教会

②ゆるしの秘跡

私たちは人間的な弱さから罪を犯し、神様から遠ざかります。遠く離れてしまった放蕩息子のように御父の憐れみに信頼して許しを願うのです。この秘跡を通して神様との関係は修復されますが、罪の傷

跡が残るので、それから清められるために「償い」が必要です。教会には古来、犯した罪のために果たさなければならぬ償いを善行や祈りによって果たす習慣がありました。

現在はこちらを免償という方法として定められています。この免償には全免償と部分免償とがあります。一般に免償を受けるためには重大な罪がないこと、免償を受けたことの希望があり、教会が定めた③の義務を果たすことが必要です。そのようにして教会の宝のお陰で清めが実現するので、また亡くなった靈魂にゆるすことも出来る訳です。

③免償を受けるために

ゆるしの秘跡にあずかる

イ ミサにあずかり聖体拝領をすること

ウ このようにして大聖年の期間中免償が受けられます。但し一日一回のみです。またすべての人がこの恵みを受けられるように次のような緩和処置もあります。

◇何らかの理由で遠出が出来ない方は指定教会でなくとも行ける教会を訪問してください。

◇外出もできない方は決められた方法で業を果たす人々と心を合わせ、ご自分の困難さをお捧げください。

◇免償を受けるための決められた条件を果たすこと。

◇ローマや聖地において

ミサに与る、十字架の道行、ロザリオ、朝の祈り、夕の祈りなどに参加する。また個人的に訪問した時は、主の祈り、信仰宣言、聖母マリアに捧げる祈りを唱える。

その他の地域において

右に準ずる。

あらゆるところで

困難の中にある兄弟たちを助けることでも免償が受けられます。

その他

悔い改めとして酒やたばこなどを控えて寄付をする。

以上さまざまな方法を用いて免償を受けられるようにおすすめます。

大聖年とは…

準備のためのQ&A

Q カトリック教会にとって大聖年とは何でしょうか。

A 私たちにとって「聖年」とは神様が特別に恵みを与えてくださる年です。そして恵みとは聖年の期間中、神様への信仰を新たにし、私たちは

回心による恵み「ゆるし」をいただき、和解と平和の実現に尽力します。

ところで聖年の数え方に二つあります。一つはキリストの誕生を出発点として、その

百年、五〇年、二五年ごとに

聖年として記念するというもの。もう一つはキリストの死と復活を出発点としてその節目を記念するというものです。

いずれにしても、教会は節目節目のときに聖年をもうけることを通して、キリスト者の一人ひとりに対して、また信仰共同体に対して、さらには、全人類に対してそれぞれ今の歩みを振り返り、これからのキリスト者としての歩みを、キリスト再臨を待ち望んで生きるように呼びかけているのです。

Q 聖年はいつごろからはじまったのですか。

A 一三〇〇年に始まりました。当時の教皇ボンファチオ八世によって聖年が設けられました。その後聖年の扉の開閉の儀式が一四五〇年に加えられ、さらに巡礼などの諸行事が時代の必要性に合わせて行われて来ました。

Q 聖書に根拠があるのですか。

A 旧約聖書レビ記二五章にかつてイスラエルの民が守らなければならない「ヨベルの年」ということが記されています。

「六年の間は畑に種を蒔き、ブドウ畑の手入れをし、収穫することができ、七年目には全き安息を土地に与えなければならぬ。これは主のための安息である。畑に種を蒔いてはならない。休暇中の畑に生じた穀物を収穫したり、手入れせずにおいたブドウ畑の実を集めてはならない。土地に全き安息を与えねばならない。」

この安息の年には畑も休み、奴隷は解放され、貧しい人にはすべての負債を帳消しにすることが規定されています。これを神の恵みとして行われ、来しました。

さらに、「あなたは安息の年を七回、七年を七度数えなさい。七を七倍した年は四十九年である。その年の第七の月の十日の贖罪日に牡羊の角笛を鳴り響かせる。あなたたちは国中の角笛を吹き鳴らし、この五十年目の年を聖別し、全住民に解放の宣言をする。それがヨベルの年である。あなたたちは先祖伝来の土地に帰り、家族のもとに帰る。」(レビ記25・3〜10)

基づいて聖年が設けられました。はじめは一〇〇年ごとだった聖年ですが、やがて五十年ごと、さらには二十五年ごとと祝われるようになります。

Q 聖年を迎えるためにはどのような準備が必要ですか。

A 新約聖書のヤコブの手紙は、この聖年のためにも示唆に富む言葉を提供してくれます。「み言葉を聞くだけで行わない者がいれば、その人は生まれつきの顔を鏡に映して眺める人に似ています。鏡に映った自分の姿を眺めても、立ち去ると、それがどのようなであったか、それがどうしてしまします。「聖年聖年」と言う掛け声を聞くだけで、何もしない者ではなく、なにか具体的な行動を起こす者になることが大切なことだと思います。

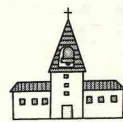
教皇ヨハネ・パウロ2世は使徒的書簡「紀元二〇〇〇年の到来」の中で次のように書いておられます。

「聖年」には悔い改めと和解が求められます。とくに今年には二十年という大きな節目となつていきますし、第二バチカン公会議に基づき、教会自

身がこれまでの歩みを見直して新たな出発をしようと考えています。主な反省点として①キリスト教会の分裂、不一致、②教会の不寛容、暴力行使の黙認、③現代の不正や差別に関して、キリスト者が教会の社会教説の原則を本当に

理解し、実行しているかを問う必要があるということなのです。

(「家庭の友」から一部前載)



ヨゼフ・ピタウ大司教が 基調講演

支倉常長を偲ぶ公開シンポジウム

十月十二日 宮城・松島

仙台藩主伊達政宗の使節として約四百年前ヨーロッパに派遣された支倉常長を偲んで、



「支倉常長を偲ぶ公開シンポジウム」(主催瑞巖寺)が十月十二日に宮城県松島センチュリーホテルで開催され、基調講演はヨゼフ・ピタウ大司教が行いました。ピタウ大司教は「江戸幕府の禁教令下において仙台藩士支倉常長が、通商使節としてヨーロッパに派遣された。七年間の交渉の末、失敗したとは言え、西洋とアジアとの政治的・経済的な交流に貢献した。カトリックの

理解し、実行しているかを問う必要があるということなのです。

(「家庭の友」から一部前載)

▲公開シンポジウムで講演するピタウ大司教

洗礼を受けた常長は神と藩主という二人の君主に仕えられないという事で悩んだ末、よく深い神への忠誠を表し、長く信仰を守っただろう。」と話されました。ピタウ大司教はまた「この千年におけるカトリック教会が犯した罪を認め、悔い改めようと呼びかけた教皇ヨハネ・パウロ二世の書簡「紀元二〇〇〇年の到来」を紹介。キリスト教を西洋文化として紹介し、政治と経済をからめて伝えようとした当時の過ちを指摘しました。

また、諸宗教の在り方について「政治と宗教は一つにしてはいけないことを支倉常長は教えてくれました。」

シンポジウムにはピタウ大司教のほか瑞巖寺の平野宗浄老師、使節の歴史的意義を説明した濱田直嗣氏(仙台市博物館館長)、司会進行は彫刻家の武藤順九氏。

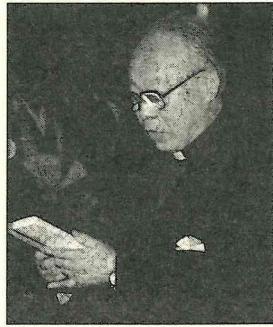
平野老師は、他宗教との出会いの場となった遣欧使節での常長の受洗は大きな成果であったとして「世界平和は他宗教との対話から。他宗教を学び、互いに話し合っって違いを明確にし、尊敬し合うこと

です。」と話しました。
このシンポジウムに先立って、午後一時から「支倉常長追悼法要」が臨濟宗瑞巖寺で

行われ、今回の催しの副実行委員長長仙台区管理者鷹背達衛神父が、追悼の言葉を捧げ、皆で般若心経を唱えました。

追悼のことば

鷹背達衛神父



一六一三年(慶長一八年)十月に月の浦を出帆し、全航程三万二千五百二十キロに及び旅をして使節としての使命を果たそうとした常長は太平洋と大西洋を横断した最初の日本人となった。東北の政治的な活動が当時の世界のご真ん中で、主役を演じたことは世界的な出来事であった。

支倉常長は、一六一六年二月十七日マドリッドで、国王フェイリーペ三世臨席の下洗礼を受けました。これは通商交渉を容易にするための偽装行為であったと見る向きもありますが、肖像画が示しているように真摯で寡黙謹言実直な風貌から、そのような老獪さは微塵も伺えないように思います。
この度支倉常長を「偲ぶ会」を行うに当たり、今後私たちの国が自国の利益のためにのみ他国と交流するのではなく、世界と向き合い、広い心をもって、共に生きて行くために交流する国となることを祈りたいと思います。

東北カトリック学校教育研修会

青森明の星高校で開催

東北地区カトリック学校教育研修会が十一月十二日(金)、十三(土)の二日間、青森明の星高等学校で開催された。新潟県を含めた東北地区のカトリック中・高等学校十一校とオープン参加の宇都宮海星女子高等学校の教員が参加した。新潟教区長佐藤敬一司教・仙台区管理者鷹背達衛神父が来賓としてご出席、開会式が行われた。

くカトリック学校教育」が行われた。「少子化、国公立学校の優位化、司祭、修道者減少などにより、カトリック学校での教育が困難になっている。私たちは再宣教・再創立するつもりで創立者のカリスマをもう一度新たにすることが求められ、そのような動きはすでに始まっている。また、日本社会の道徳的、思想的混乱の中で人間として生きて行くために必要な宗教心を生徒とその保護者の心の中に育てることは、カトリック学校の責務である。そのために私たちが力を合わせて教育するしかない。」と話されました。

八科目の公開授業と教科別懇談会が行われ、午後一時から上智大学名誉教授山本襄治神父の基調講演「21世紀を拓

この講演を受け、七グループに分かれて活発な話し合いが行われた。
二日目は、宗教部会、生活指導部会、進路指導部会で、研究発表と話し合いがなされた。次回は二〇〇一年、盛岡白百合学園中・高等学校で開催される。(二唐 昇)



基調講演をする山本襄治神父

◎信徒宣教師会を

ご支援下さい

仙台教区出身高橋章子さん派遣
12/5日付カトリック新聞掲載
〔郵便振替口座〕
〇〇一七〇一〇一七八一二四
〇〇一七〇一〇一七八一二四
カトリック信徒宣教師会

信徒宣教師を海外へ派遣するための養成費、派遣費として大切に使用して頂きます。
事務局 ☎〇三五六三三四四八〇

ラ・サール会

下山修道士帰天



ラ・サール会修道士下山茂夫さんが、十一月九日仙台オーブン病院で肺炎のため帰天された。七十三歳。
下山さんは、昭和二年岡山県生まれ。仙台では、求道者の指導、教会一致の活動に尽力された。ご冥福を祈ります。